

# ドル/円相場のトレード戦略

## 【ドル/円 週足】



### ■中期展望

2019年の展望を考えるに当たり、昨年2018年を振り返ってみると、当初想定していたように2017年と同様のレンジ相場が継続してしまいました。

年間の値幅は10円を下回り過去最少、2017～2018年の2年間を通して値幅は14円に満たず過去最少となり、市場のボラティリティから収益を得ようとするディーラーにとっては極めて厳しい環境となりました。

その大きな要因としては、絶好調だった米国の経済状況にもかかわらず、年初に米国の政策への不透明感からドルが下落したこと、そして年末には米金利のフラットカーブ化やそれに伴う米国株式の大幅下落、米中貿易摩擦の激化などのリスク要因が相次いだことでドルの上値が抑えられたことが挙げられるでしょう。

米国経済が強調であり利上げ予測が続くためにドルロング・ポジションが蓄積される中でもドルが大きく上昇しないという現象は、ドル高派にとって想定しにくい状況であったと思われます。

そのため、年明けの1月3日に108円を割り込むと損切りのドル売りを巻き込みながら、ドルが短期間に4円以上の下落という動きが引き起こされました。

107円半ば以下では、公的年金のドル買いのうわさもあり、現在ではややドルが持ち直していますが、依然不透明な状況が続いています。

# ドル/円相場のトレード戦略

今後の相場は、米経済の成長が鈍化するのか、それに伴って米国の利上げが打ち止めとなるのかが注目されることになるでしょうが、1月の米FOMCでは声明文から追加利上げのバイアスが削除されたことにより政策スタンスが大きく変わった可能性が指摘されており、当面の上値は限られたものとなりそうです。

ただし、2月の米雇用統計は好調を維持しており、目先は明確なファンダメンタルズの変化が起きることも期待しにくいことや米国の貿易交渉の行方が不透明なこともあり神経質な動きが予想されます。

1月3日のドル急落でポジション調整も進んだものとみられることから一段の大幅ドル安には向かわない可能性が強いものと考え、当面は105円～110円程度をコアレンジとする動きが続きそうです。

## ■短期展望

先週は、週初109円半ばでスタートした後、前週末の米雇用統計やISM製造業景気指数を好感したドル買い優勢の地合いを受け継ぎ、ドルは堅調に推移しました。

しかし、ドルは何度も、110円台に乗せる場面がみられたものの、いずれの場合も定着や続伸を阻まれ、110円台でのドル売りも根強きものがあることが示唆されていました。

今週も、先週同様ドルが底堅い動きが続くと思われるものの、110円半ばから後半にかけてはドル売り意欲も強く、上値は限定的となりそうです。

米中通商協議への楽観的な期待の後退や米政府暫定予算案の期限が到来し、政府機関の再閉鎖へ及ぶ可能性が高いことなど、ドルへの不安要素も多く残っており、一本調子のドル高は期待しにくいものと思われます。

したがって、週前半ではドルの上値を試す動きとなるものの、その後は利食いに押されるリスクを警戒する展開を予想します。